

画像電子学会 図書館における視覚・聴覚支援技術

図書館を利用する聴覚障害者へのサポート - コミュニケーションを保障するための技術・メディア -



2017年1月27日

一般社団法人全日本難聴者・
中途失聴者団体連合会
株式会社ヴィアックス
図書館事業本部
障害者サービス担当

小川 光彦

カウンターでの配慮例
(市川駅南口図書館)



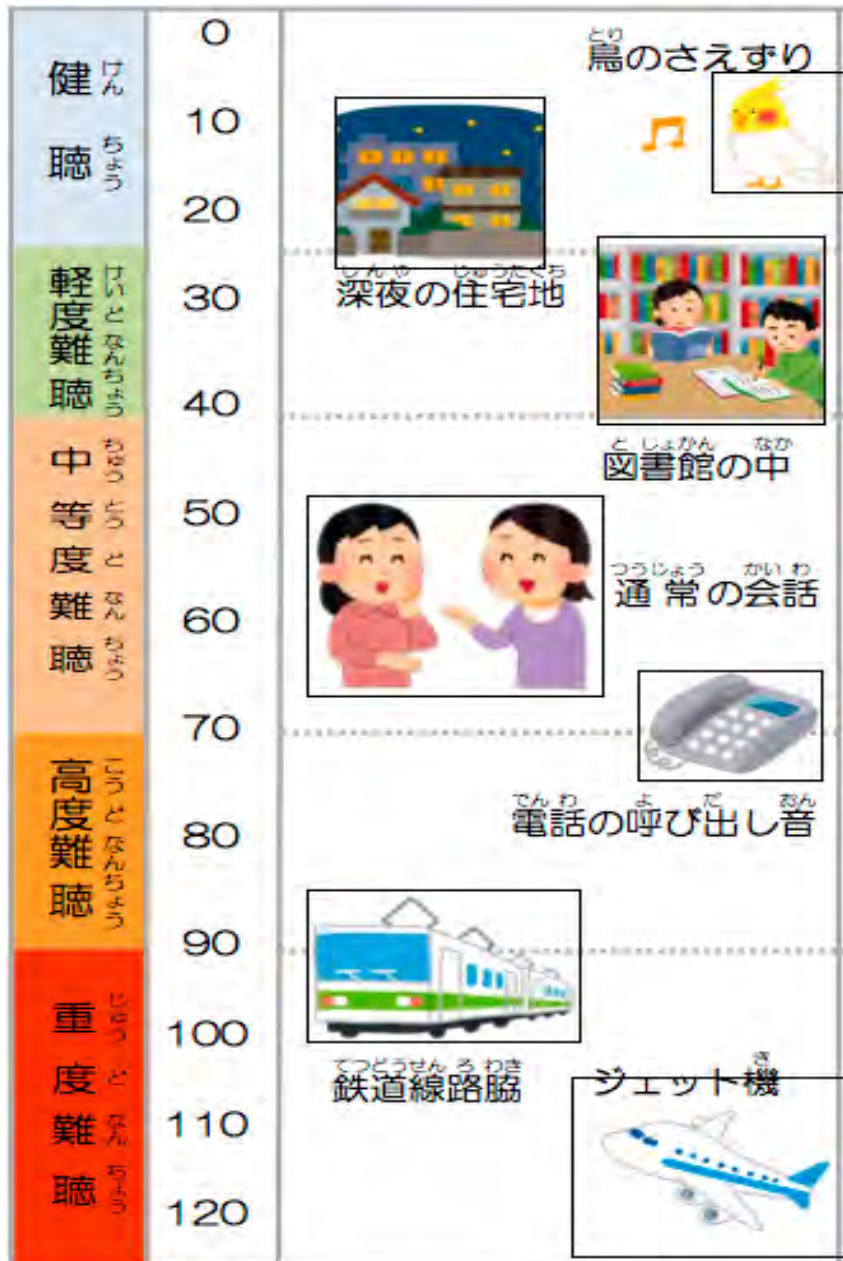
1 障害とは、障害者とは!?- 自己紹介

■私について

- 4～5歳のとき、薬害で聴力低下
- 現在聴力は両耳とも約95dB前後。
- 語音明瞭度は40%前後（単音）。
- 補聴器は限定的な効果あり。
- 手話や読話、筆談、FMマイク等使用。



2 個々で異なる「音と聞こえのレベル」



音と聞こえのレベル

小さな声での会話や騒がしい場所での会話に不自由を感じる。たまに聞き間違いがある。

大きめの声や、ゆっくりの話し声なら聞き取れる。聞き間違いが増える。

耳元の大きな声なら聞き取れる。

耳元の大きな声でも聞き取れないことがある。

城陽市「みんなではなそう」より引用



3 何に困っているのか？

画像提供：(公財) 共用品推進機構



警笛が聞こえない



放送が聞こえない



話しているのに
気がつかない



講演会で人の話が
聞こえない



呼ばれてもわからない



家の中の音が
聞こえない



4-1 基本的な対応方法

1) 話しても伝わらない

相手が聴覚障害である可能性を考慮し、視線を合わせてから明瞭な話し方をする。必要以上に大きな声を出さない。視覚的な材料を活用する。

2) 音に気づかない

補聴器のハウリングなど、音が出ているときはメモ書きなどで伝えるとよい。

3) 質問への回答が明確でない

「はい」「いいえ」で答える質問ではなく「Aですか、Bですか」と、選択肢を提示して回答してもらう方法が有効。

4) (高齢の難聴者) 年寄り扱いするなと怒る

聞こえていないと思って筆談すると、年寄り扱いするなと怒る人がいる。

筆談はやめて、1) にあげた方法を中心に、ゆっくりはっきり明瞭にお話する。

慣れている人に対応を代わってもらうのも方法である。



4-2 基本的な対応方法

5) カウンターには聴覚障害者用に筆談用具を用意する。

6) 聴覚障害者を支援することを視覚的に表示する（耳マーク等の活用）

7) できれば手話のわかる方には手話で。その他、視覚的な身振りも有効。

8) 聴覚障害者用に手話・字幕付き DVD を用意する。聴覚障害者情報提供施設を紹介する。

<http://www.zencho.or.jp/sub3.html>



カウンターでの配慮例
(市川駅南口図書館)



※聴覚障害者や多文化サービスのため、日本語字幕・英語字幕・英語音声吹き替え等も重要。



5 DVD「しゅわ絵ほん」

志茂田景樹さんの絵本をろう者が
日本手話で読み聞かせした。



明晴学園 & ダブル・ピー株式会社 3,000 円

<https://www.youtube.com/watch?v=NwbTv1ecNfQ>



6 【八王子市図書館】手話による図書館利用案内



DVD「手話による図書館利用案内」約 35 分

<https://www.youtube.com/watch?v=66GXXIQD9hA>



7 音声認識アプリ「UDトーク」



話した音声を文字に変えて表示するアプリがあり、近年広範囲で活用されはじめています。
スマホ・タブレットで使用できる。個人使用は無料。

<http://udtalk.jp/>



8 司書さんが覚えておきたい手話講座



VIAX 図書館事業本部で作成。図書館で
使う手話単語、会話を紹介。

<http://viax-os.com/syuwa>